

滋賀県介護の魅力等発信部会 (令和2年度 第3回)

- 日 時 令和3年3月18日(木) 15:00~16:30
- 場 所 WEB会議
- 出席委員 後藤委員(部会長)、東委員(副部会長)、本條委員、樋口委員、中村秀樹委員、山岡委員、中村真理委員、河岸委員、岡戸委員、築地委員、原田委員
- 欠席委員 平尾委員、上村委員、澤村委員、山委員
- 議題

- (1) 介護のしごと魅力発信事業について
 - ・ 企業訪問報告、各種メディアの活用
 - ・ 令和3年度スケジュール
 - ・ 中長期的目標

1. 挨拶

- 2. 議題 (1) 介護のしごと魅力発信事業について
 - ※資料1により事務局から説明

◎企業訪問報告、各種メディアの活用

【委員】

- アニメはやはり見やすい。Vチューバーで介護を発信している方たちを巻き込んでみてはどうか。こういう方たちは、自分のVチューバー技術を発揮し披露したいところもあるので良いのではないかと。そういった意味で、自分たちのできない部分を民間業者の方がプロデュースしてくれるのは魅力である、仕組みを作ってくれる人達を巻き込みながらしていければ良いと今回感じた。

【部会長】

- 大学や漫画ミュージアムだと次の展開の広がりを考えないといけないが、皆様から意見が出ているように、訪問していただいた業者には、実際にお会いしていないが、次の展開を一緒に考えてくれる熱意、思いは感じた。その辺りを思慮した事務局の展開なのかなと思いつつ聞いていた。この流れで行くと、私は、訪問した業者にご協力していただけたら良いと感じた。

◎令和3年度スケジュール

【委員】

- オイオンモールでのイベントが後ろ倒しになっていることについては、コロナワクチン接種等が始まるので、イベントに向けて準備する時間ができて良かったのではないかと、団体の意見にも出ていた。
- 各種媒体による発信については、7月頃から各施設等に取材訪問になると、この部会の委員がいる法人等は良いが、団体の理事以外の他の法人等には、まだ主旨が伝わっていない状況。内容が決まり次第すぐに周知しないといけないので、それを踏まえて団体として準備に

入る必要あると感じた。

【部会長】

○イベントの方は分かりやすいが、アニメ等については、今後の進捗具合や、どのように各団体の協力を得るのか、どのように連携していくのか、見えにくいところがあるという感じ。事務局どうか。

【事務局】

○各種媒体の発信については、これまではテレビ放送限定で考えていたが、今回から企業の提案を募るという形に変わったので、その提案が出て来ないと県からも依頼ができない。提案が明確になり次第、各団体に共有し、その後準備を進めていきたいと考えている。

【委員】

○各種媒体による発信について、内容や動画時間等は提案内容によって変わってくるのか。

【事務局】

○そのとおり。

【部会長】

○資料1の滋賀県の目指す姿、事業内容は、県で組んでいる事なので、それを我々が理解しようという話になる。ターゲットと目標その1・その2の意見はどうか。事務局からの提案ということで。

【事務局】

○2年間のこれまでの会議で出た意見を踏まえてである。ターゲットに学生とその親というのは、昨年度の会議でも重要であると議論があった。

【部会長】

○そこは、異論はないと思う。

○介護職員2万人以上というのは事務局独自で考えてのことか。

【事務局】

○まずは、当事者が自分たちの仕事の魅力を感じないといけないとの意見が今期の会議でもあり、2万人は県内介護職員の推計値である。

【部会長】

○これまでの議論を踏まえて、2万人というのは良いと思うが、どうか。

○ターゲットと目標2についても、大切な目標であると思うが、どうか。

(特に異議なし)

◎中長期的目標

【部会長】

○今後の展開は盛沢山であり、新規展開も入っていて非常に面白く思っていて見ている。

【事務局】

○プロポーザルでアイデアを募るという形になり、手法は無限に広がった。我々は具体的な目標を考えているので、それを達成できるように一緒に考えてほしいと、明確に業者に示すことが大切で、唐突感があったが先の目標を表す必要があると考えた。

【部会長】

- もう少し、踏み込んで具体的に説明してほしいと思うところではある。
- 企業と介護業界がマッチングして動くという事はいいと思う。
- 意見等どうか。

【委員】

○イメージがわかりやすい参考事例を教えてください。

【委員】

- 介護のPR活動をしている民間企業にとってビジネスになるという口述書になっているが、皆様の目標であり求めているのは人材確保という事なので、PR活動を行う企業と組む事よりも、介護業界のPR活動を通じて、人材を確保することに携わってくれる企業が自分事としてしっかり儲かるようなビジネスをしてもらうことが大事である。
- あまり詳しくはないが、人材紹介会社などの就職や転職を支援する企業が、介護関係の仕事をどの程度熱心に行っているのか。やっているのであれば、その企業の能力を上手く利用する事が近道と考える。未だ、そのような会社没有出现していないのであれば、手法や経済面で成り立たない理由があるのだろうと思う。資本の論理で動かない部分があるのだとすれば、それ以外で補わなければならないので、私自身も実態の精査が必要であると考えている。
- 民間企業にとってビジネスになることは、収益が上がるということなので、そのことによって、当方にメリットがあるのであれば、相手が営利目的の民間企業であっても遠慮せずに助けてあげればよいと個人的には思う。

【副部会長】

- 人材紹介会社にも事務局職員と行った。委員が言われたように人材紹介会社は介護業界に進出している。人材紹介、人材派遣にとって、介護業界は利益があるので介護専門の小会社が乱立してきている。
- イオンモールでのイベントでも人材紹介会社とコラボして、両者が利益を得る関係となれないかと話し合ったが、会社の名称を使用すると難しいとのこと。協賛はできないが、何らかの形で関わることは可能であると聞いている。令和4年度目標の中で、両者が利益を得る関係で、滋賀県に良い人材を取り込んでもらうようになれば。

【委員】

○介護の現場にいる人からすると、転職サービスの企業活動は、使いにくい、求めているものと違う等あるのか。

【副部長】

○自分の印象では、人材紹介の紹介料の高騰である。人材会社は人材が回転すればするほど利益が上がるという考え方が、事業所等の現場からすれば非常に腹立たしいが、そうでなければ商売としても成り立たないので、ある程度お互い理解しつつやっていかないといけないと思っている。

【委員】

○大学で就職支援に携わっているもので、共感している。新卒で就職しても3割が3年以内に辞めてしまう状況が現実としてあるので、つまりはマッチングが機能していない。また、就職支援後に転職支援して2回稼ぐというビジネスモデルになっている。不安感を煽ることによって、利益を得るビジネスモデルであり、資本の論理が入りすぎているところはあると思う。だから、皆さんがこの事業でやろうとしていることに重要な意味があると理解している。

○だとすると、介護の人材確保のPR活動が得意な会社は既にあるので、目の前の人材不足については上手く使っていけば良いが、しっかりと定着して未来を担っていくような、柱となっていく人材を一人でも多く発掘し、参画してきてもらう必要がある、それには信頼を獲得という言葉が事業計画内にあるように、腰かけの仕事でなく、人生をかけられるという信頼感を持ってもらうためには、どのようにすればよいのかという問題設定になる。これは、人材紹介会社ではできない仕事である。

○裏を返せば、これまでやれてなかったことをやろうという話なので、非常に難しい問題になると思う。最大の問題は、こうした今まで無かった仕事をやるときに、リスクを背負う人がいるかどうかと、それを支える資金がついてくるかどうかである。

【副部長】

○そこは事務局をお願いしている。

【委員】

○この部会は役所っぽくなくて面白い。

○このメンバーでベンチャーをしないといけないということ。

【副部長】

○自分は一般企業で勤務した経験があるので、その感覚を持って話しているかもしれない。

○集客等の利用できる部分は利用し、求職者に介護の魅力を発信し続けて、参入促進の例となればと思った。令和4年度のイメージはそのような感じだと思っている。

【事務局】

○ビジネスの部分は、同じ思いである。

○そのほか、企業をターゲットにする話として、高齢化が進む中で、親世代というのは、自分の親は介護が必要となり、自分の子供は就職を控え、自分は会社でベテランのポストであるという、悩みの多い世代になると思う。そういう悩みに対して、介護業界が支えになり、戦略的にそこを突いて信頼を獲得していったらどうかと思っている。

○例えば、企業において社員の介護離職で困っているとすれば、離職する状況にならないように、介

介護サービスの使い方をセミナーしたり、働きながらできる在宅介護方法を伝えていっても有効ではないのかというイメージも持っている。

- 民間企業も、社会貢献や地域貢献に関心が高まっている。植樹、福祉車両の寄贈または福祉用具の寄贈の事例のように、介護・福祉に関わることで自社のイメージアップになるというニーズはあるのではないかと考えている。

【委員】

- 仕事柄、まさにそういうケースの相談を受けて、施設を利用する方がかなり多いと感じている。ただ、企業の側からすると、そう多くはないのだろうと思う。対象企業とこれから相談していくのであれば、それなりの大企業を考えていかないと、どんな企業でもあると思うが件数や需要の部分は調査が必要である。

【委員】

- 我々ケアマネがご家族と関わる際、介護離職問題などに対して、家族支援として自分たちが見ていかなければならないところであり、利用者だけでなく、家族の生活も守れるような方向に変わってきていると実感しているところ。ワークサポートをするようなケアマネの育成も今後考えていく流れもある。おそらく企業の方も人材を確保しておきたいという時代にあると思う。
- 数字的に言うと、悩みながら働く人がいるというより、苦痛で既に離職してしまっていることが多いと思う。こういうことが企業にとってどのくらい問題になっているか、実際の数はどうか等、もう少し見えた方が良いと思う。
- 他方、私たち介護業界こそ、働き方を変えることのできる業界である事を出していけばいいのではないかと考える。ケアマネは年齢関係なくできる仕事であるのでアピールできればと感じていた。
- 目標の2万人は大きいと感じている。実際、県内の介護業界に2万人おられるのか。自分たちが自分たちの魅力を発信できるようになればということですね。

【事務局】

- 介護職員としての仲間が2万人いらっしゃるということ。
- なお、介護離職数は、全国で10万人おられ、滋賀県内で離職された数としてカウントされているのは1千人。多いか少ないかの判断は難しいが、未調査であるが、離職しようと悩んでいる方は潜在的いらっしゃるのではないかと考えている。

【部会長】

- 企業と、介護現場がどのように関わっていくか。介護サービスの提供が解決方法のひとつとしてある中で、セミナーや研修以外の深い関わりとなると、どのようなことをしていったら良いのかは、イメージできにくいと思う。セミナーはできると思うが、それ以降も継続して関わっていく取組は練っていないといけないと思う。

<10分休憩>

【部会長】

○副部長や委員と関連して、求職者情報を握っているのはどこなのかという点で、人材紹介会社を利用している層とハローワークを利用している層とは違いがはっきりしていると思う。紹介派遣が扱っている人材の層もまた違うと自分では整理して考えているが、その中で、どこに向けて、どのように発信していくと良いのか。人材関連の企業との連携するにしても、頭には入れておかないといけないと思う。

○イベントについては、ワクチン接種を控えている今は具体化できないが、現段階で意見があれば願います。スケジュールの見直し、ハイブリッド等、ご意見をいただきたい。

【委員】

○介護の日の前後は、他のイベントも多いと思うので、介護の日に捉われず集客できる時期の方が良いと思う。

【委員】

○シニアファッションショーはプロポーザルの中に含まれるか。

【事務局】

○シニアファッションショーは、県の予算に含んでいない。連合会の持ち込み企画として行っていたか。

【委員】

○準備に時間がかかる企画なので、早め早めに準備したいと思っている。

【事務局】

○こういうイベントに来場される方は、介護するであろう人や、介護している家族等の介護職員以外が主なターゲットになると思う。市町が介護家族の会を作っている場合があるので、アプローチして集客をはかってみてはと思う。

○介護家族の会の方は、介護相談を求めてくることが多い。地域創造会議でイベントを開催した時も、何人か介護相談で話しかけていただくが、場違いで案内できず心苦しく思ったことがある。例えば、ケアマネ協会で介護保険制度や介護保険サービスの説明をしていただく中で、ご負担になるかもしれないが、相談ブースのようなものを作っていたかと思っている。

【委員】

○ケアマネ協会としては、元々は介護保険やケアマネの仕事内容等を動画で流そうという企画を思っていて、1人か2人は現場にいようと思っていた。

○イベントで個別の深い相談はできないし、実際どうなのか読めないのが現状。

○ブースの設置は協会負担か。

【事務局】

○会場のブース自体の設置は県予算に含んでいる。

【委員】

- 人力で頑張れば良いという事です。ね。
- コロナの感染予防をしっかりと行わないと、相談も受けにくいと思うので、動画よりもQRコードを設置し読み込んでもらう方が良いかとも考えていた。実際に相談できるような形も検討してみる。

【部会長】

- イベントのスケジュールはワクチン接種の行方もある。開催方法の判断はイメージできていると思うが事務局どうか。決まっている範囲でお願いしたい。

【事務局】

- まずは、リアル開催で準備したいと思う。WEB上で視聴や参加できるのは、感染状況に関わらず参加しやすいというメリットがあるので、ハイブリッドを考えている。

【委員】

- 先日、入門的研修を4日間開催したが、希望が多くてすぐに満員になった。参加される方は、元々介護に興味があり、自分事に捉えているので、取り組む姿勢も熱心であった。介護というフレーズは、みんなが興味持っているものだと思う。イベントには、一般人が多く参加されるので、きっちりフォローしていくのが良いと思う。
- 2月に事業所の協力で、八幡高校においてふく楽CAFÉを実施し、48人の学生が参加した。レポートの中には、介護の仕事はキャリアチェンジ、キャリアデザインできるところが、魅力的であると書かれていた。これから、目を向けられる職業であればいいと思うし、そういうところを、切り取ってイベントで出せたらよいと思う。

【部会長】

- アニメ、各種媒体での発信、イベントの話は一通りうかがったので、あとは事務局でまとめて事業を進めていただく。
- 次年度の方向性も出されているので、各団体で持ち帰って次年度につなげていただきたい。
- 本日が今年度最後の部会となる。今年度は全ての部会がWEBになり、議論しにくい環境もあったが、一言ずつお願いしたい。

【委員】

- 福祉の仕事は、この仕事に就いている人は、面白く楽しい魅力あるだと思っていると思うが、それを広く発信する機会が無いという思いはずっと持っているので、色んな方法をここで検討できるのは介護業界にとって良い事だと思う。
- 介護はICTが導入されても、人と人との繋がりの仕事、人でないと出来ない仕事、魅力ある仕事なので、多くの人に知ってもらえて関心を持ってもらえれば良いと思う。イベントやアニメを見て面白い仕事なのだと、仕事に就かなくても興味を持ったところから始まれば良いと思う。

【委員】

○皆様の考えや、意見をいただいて勉強できた。介護の良い部分を、知らない人に知ってもらう事や、介護のマイナスイメージを持っている方を払拭するために、アニメや各種媒体を通じてということはすごくいいアイデアだと思う。今までの介護の堅く真面目なイメージを大きく変えられると良いと感じている。これからも頑張って、色々な意見を出していきたいと思う。

【委員】

○今年度で連合会の役員を退任させていただくので、来年度はわからないが、また何らかの形で参画したいと思っている。

【委員】

○広報と宣伝の違いなど、勉強になることがたくさんあった。また、皆さんの考えや熱心さも伝わってきた。私は次年度も残留させていただくので、このイベント事業が成功するよう力を注いでいきたい。

【委員】

○本会としては、魅力って何だろうということが課題であり、なかなかゆっくり話せなかったが、青年部と一緒に精査しながら進めている段階である。

○検討事項として含めていただきたいのが、このイベントが当日1日であり、場所は湖北から距離がある。家族介護されている方にとっては、デイサービスの利用時間帯しか出て来れないので、例えば社会福祉協議会でバスを出してもらうことや、あるいは学校で授業の一環でイベントの日をカリキュラムに組み込み、参加してもらうような仕組みを取り入れていただきたいと思っている。

【委員】

○やろうと言いつつ出来なかったこのイベントだが、来年こそは、形こそわからないが、開催できたらいいなと思っている。

○この部会とは違うかもしれないが、課題提起をしたい。高卒、障害者、経済的な理由等々で、運転免許証を持っていない方やとれない方は、就職先に困っているという話を聞いた。法人として、こういう方々を支援することはできないかと思っていたが、法律の絡みもあって難しかった。例えば、地域ブロックの中で、運転免許証を持っていない人の通勤に対する支援が制度化されれば良いなど、難しいことだが思っている。

○ここでなくても、介護の新たな魅力の取組の中に形にできたらいいなと思っているので、どこかで、相談できればと思う。

【委員】

○今年から参加し、皆さんと話をし、たくさんの気づきがあり、毎回楽しみに参加していた。ケアマネの皆はなぜ仕事を続けているのか、ケアマネの魅力は何なのかを考えていて、現任者にも話を聞くが、そこにやりがいや生きがいと感じている人が多く、人と人との関わりの中で、色々な人と触れ合っていて感じていくのだと思う。ケアマネの魅力をもっと出していければと思っている。介護の仕事も違う業種から見たら、違う魅力が発見されると思うの

で、それも発信していければと思っている。高校生のレポートにあったキャリアチェンジという言葉について、キャリアを自分でイメージできるという新鮮な事も聞けて今日もよかったと思っている。また、福祉の仕事は地味なイメージがあるが決してそうではなく、人の人生を輝かせる事ができるのだと言っていきたいと思う。

【委員】

- 1つ目は河岸委員が提起された交通手段サポートについて。私は滋賀県県交通戦略課から龍谷大学に受けている交通関係の調査事業に関わっており、その流れで今年7月に滋賀県において開催される「第10回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」の実行委員に個人の立場に入った。会議には三日月知事も参加される予定。元鉄道員の知事は交通税の問題を提起されていて、みんなの移動手段のコストは受益者負担ではなく、社会全体で負担する仕組みを目指そうという考え方を具体化した案が交通税であるが、滋賀県が先駆けて審議プロセスに入りつつある。脱合成洗剤を目指したいいわゆる石けん運動に続く、大きな意味のある取組だと思う。
- その全国大会は、学会的な部分と併せて市民フォーラム的な部分があり、市民フォーラムでは、現場や利用する側からの発言やメッセージなどを出してほしいと思っている。困っている場面や少し工夫すれば良いなど、色々な発言を集め、新しい方向性が見出せればと思っているので、ぜひご協力、ご参画していただきたい。近々、公表されるのでその際は共有する。
- 2つ目、委員がおっしゃったように、PRである広報と宣伝広告は目的が違うわけであるが、皆さんの目的は宣伝広告を通じて人に近づきたいという気持ちがあるのだろうと思うし、それで良いのだと思う。言葉が不適切かもしれないが、ええ恰好して魅力を作ろうと考えなくても、既に十分魅力的であるからもっと積極的に人を獲得していけば良い。広報という言葉に惑わされず、宣伝広告をガンガンやっていけば良いのではないかなと、この一年間関わって思った。
- 3つ目、その上で、魅力をしっかり伝えていくには、もう少し戦略的に、PR企業、民間企業にとってビジネスになるように、コーディネートを仕掛けていく立場の人間がどうしても必要だと思った。それは行政でも、介護現場の人間でも無く、中間的な組織を作って、専門家を、1人2人養えるようにすることが、大切だと思う。そういう意味で、私はまだ不勉強ではあるが、介護業界全体として、人材獲得のためにかけているコストは十分なのか、チェックをされた方がいいと思った。一般産業界であれば、新卒で1人当たり80万円くらいかけて獲得していて、それくらいのコストをかけないと、良い人材は獲得できないと思っている。そういう資金プールはあるのかという問題と、その資金を活かして、単に人材紹介会社に丸投げするのではなく、その資金を戦略的に使っていくための人材を介護業界で作ることが必要ではないかなと思う。

【委員】

- 会議が全てオンラインということもあってか、2月の就職フェアにおいて、リアルで委員とお会いしてもわからなかったということもあった。また、皆様とリアルに会えることを楽しみにしている。

【副部長】

- 皆様の貴重なご意見が聞けたことは、本当に良かった。事務局職員と一緒に大学や企業等に訪問したことも良い経験であった。委員の言葉は、考えさせられる事が多く、全然違った視点からだったので参考になった。
- 個人的に言うと、新しい事業であり結果がどうなるか不安はあるが、あまり結果にこだわらず、皆が自由に発言して行き、その結果で来年度考えれば良いというところで、とりあえず、実行していきたいと思う。どのような感じで、イオンモール等のイベントができるか分からないが、みんなが同じ方向を向いていただければと思う。
- アニメ化については、色々な制作会社と話をしているが、介護のイメージの題材がほしいと言われており、皆さんの事業所等で素晴らしい職員がいると思うので、そういう職員からの題材を、来年度に事務局にどんどん渡していけば、うまくプロデュースしてもらえるとと思っている。
- 介護の魅力に関しては、昨日やこの会議の前に外国人の看護学生と直接会話をしたが、日本の介護に対して、すごくいいイメージを持っていて、素晴らしい技術を持っているとか、素晴らしいケアであるとか言っているが、なぜ日本人はそう思わないのか。外国では、どのような形で、日本の介護の魅力を発信しているのかと興味を感じている。それだけ日本の介護は素晴らしい技術と能力を持っているのだと思う。日本に来たい若くて素晴らしい学生達が多かったので、日本も同じようになればと思った。

【部長】

- 今年度、オンラインで会議を続けてきて難しい部分もあった。途中で、いい意味で思わぬ展開になってきて、私は面白いなと思った。色んな新たな展開に更に進んで行くという期待の持てる部会だったと思う。今日の説明にあった訪問した企業のように、今までの関わっていなかった所に、話を持って行ったときに介護業界を応援しようと言う気持ちに触れると勇気づけられると改めて感じた。介護業界を応援して頂ける人たちを、もっと巻き込みながら展開できればと思っている。
- 他方で、介護の魅力等発信部会は、当協議会の理事会などでも結構期待されている。その期待をまともに感じると辛いので、程々に感じつつやっている。それだけ皆様が人材確保に大変な思いをしているからだと思う。たくさんの人を巻き込み、次年度はメンバーも変わると思うので、バトンを渡したいと思う。

【事務局】

- 介護の魅力等発信部会は、昨年度に必要ではないかと職員が起ち上げてから、2年携わってきたが、一番印象に残っているのは、委員が言われたように、人生そのものを輝かせる、生きることそのものを支援するのが介護であり、それが一番の魅力であることが早い段階で皆様から出てきたことが非常に良かったと思う。委員も先ほど、既に魅力的であるとおっしゃったが、一人ひとりが既に魅力的である。まだ残っている仕事としては、それをストーリーとして抽出をするというのが事務局として出来ていない仕事で、来年度の大きな仕事になっていくのだと思っている。

【事務局】

○閉会の挨拶

以上